

平成30年度学校評価アンケートの結果から

本校の教育活動を振り返り、次年度の学校経営に生かしていくために、学校評価アンケートを実施しました。また、児童生徒には学校生活アンケートを実施しました。多くの保護者の皆様に御協力をいただき、ありがとうございました。学校評価アンケートの保護者回収率は91.3%で、学校生活アンケートの児童生徒回収率は93.6%でした。以下、学校評価アンケートの結果と考察および学校生活アンケートの結果と考察をお知らせします。

1 学校評価アンケートについて

(1) アンケートの内容について

質問項目は、保護者と教職員の質問内容を対応させ、双方の認識を比較できるようにアンケートを作成し、実施しました。

保護者向け質問項目：19項目の質問に対し、「満足している」「大体満足している」「あまり満足していない」「満足していない」の4件法で回答をいただきました。

教職員向け質問項目：19項目の質問に対し、「できている」「大体できている」「あまりできていない」「できていない」の4件法で回答しました。

(2) 保護者アンケート結果から

「満足」「大体満足」が全体の95%を上回るものが、「いじめや事故などの配慮や対応」「適切な防災対策」「子どもの様子が分かる通知表等」「児童生徒の人権を尊重する姿勢」「学習環境の整理整頓」

「円滑な連携」でした。「あまり満足していない」「満足していない」がおおむね10%を超えるものは、「社会自立に向けた小・中・高の一貫した指導」「地域連携・開かれた学校」「施設設備の整理整頓」「相談窓口の明確化」「卒業後の自立に向けた進路指導」「情報発信の充実」でした。これらについて、改善に向けた見直しを行い、年度途中での確認や修正等、積極的に取り組んでいきます。

また、自由記述からは、「全校児童生徒が参加できる行事の開催」「ホームページの更新」の意見が複数ありました。他に、「地域連携や学校周知」「学校施設設備の改修や教室の確保」「情報共有」に関する内容が挙げられていました。教職員への応援の言葉には感謝を忘れず、全職員で課題を共有し、改善に向けて前向きに取り組んでいきたいと思えます。

(3) 教職員アンケート結果から

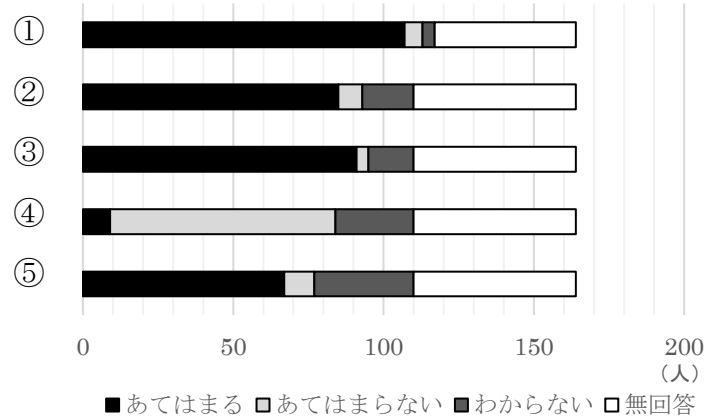
全体の傾向として、保護者と意識のずれはありませんでした。「できている」「大体できている」が全体の90%を上回るものが、「児童生徒の状況把握」「いじめや事故などの配慮や対応」「連絡や相談への丁寧な対応」「円滑な連携」でした。「不達成」「やや不達成」が15%を超えるものは、「一人一人が分かる授業づくり」「地域連携・開かれた学校」「卒後の社会的自立に向けた進路活動」「近隣校との連携」でした。

また、自由記述からは、「新学習指導要領改定を踏まえた教育課程の見直しと計画」、「支援指導の研修や校内のルール・システムの共通理解」「学校行事の検討」「交流及び共同学習の在り方」といった意見が多くありました。次年度に向けて、教育課程の編成と教育活動の改善を図っていきます。また、校内体制や学校行事の内容について検討し、教員のさらなる資質向上に向けて研修を実施していきます。

2 児童生徒用アンケート結果について

質問項目

- ①あなたは学校に来るのが楽しいですか。
- ②あなたは仲のよい友だちがいますか。
- ③あなたは友だちや先生にあいさつしていますか。
- ④あなたは9月になってからいじめを受けたことがありますか。
- ⑤あなたはいろいろなことを相談できる先生はいますか。



学校生活アンケートを、小学部（50名）、中学部（35名）、高等部（88名）の児童生徒に対し、11月日に実施しました。5つの質問のうち、回答が難しかった児童生徒が3割ほどいましたが、「学校に来るのが楽しい」、「仲のよい友達がいる」、「友達や先生にあいさつをしている」の質問に対し、「はい」と回答した児童生徒が6割以上いました。

④の質問に「ある」と回答した児童生徒については、「学校いじめ防止基本方針」に基づいて調査をしました。人との関わり方で嫌な事をされていると感じてしまっているなど、コミュニケーションの取り方によっては受け手にとって「いじめ」になりうると教師が再認識し、生徒の指導支援にあたりました。また、「ある」と回答はしたが、保護者との確認でいじめではないとされた児童生徒についても、引き続き見守りを続けていきます。今回のアンケート内容を真摯に受け止め、御家庭と学校で児童生徒の様子を共有し、安心できる教育の場を提供できるよう、今後もさらに努めてまいります。

3 アンケート全体から

今後も、保護者・地域と連携し、開かれた学校になるために、地域との交流や、児童生徒の「自ら学び生きる力」を高める教育活動の取組を検討します。また、学校や地域の実情に応じた活動や行事を積極的に取り入れ、障害理解や学校周知の一助となるように進めていきます。

そして、学部・学年・学級間の教職員の相互補完にとどまらず、様々な機会をとらえ、真摯に保護者や地域の皆さんの声に耳を傾け、情報発信に力を入れていきます。さらに、教職員と児童生徒のふれあいを大切にし、児童生徒一人一人が学校で学ぶ楽しさや生きがいを感じることができる教育活動に取り組んでいきます。その教育活動が、卒業後の社会自立に向けた小・中・高と一貫したものであり、適切な進路指導となるように努めていきます。

アンケート結果のみならず、気になることやお気づきになったことがありましたら、些細なことでも学校にお知らせください。よろしくお願いいたします。